

美術科

1. これまでの取組（前年度からの課題を含む）

美術科では、昨年度までの研究で『造形的な見方・考え方』を働かせながら、自己のアイデアを基に新たな発想を生み出すことで、更に豊かな表現を目指して自ら追求できる生徒の育成を目指してきた。そのために、作品のアイデアを発想や構想をする段階において、形や色彩から受ける印象や美しさなど造形的な視点から発想する「試行活動」と、その自分の発想を基に他者の見方を加えて構想を検討する「構想検討タイム」を設けてきた。その結果、生徒たちは造形的な見方・考え方を働かせた新たな発想や構想をすることができ、発想がより広がったと考える生徒が増えた（全体の 85%以上）。課題としては、生徒の発想や構想が、検討を行ったグループ内での深まりに限定されてしまっていることがある。また、自分が何を表現したいのか分からず、発想できない生徒もいた。

今年度は、生徒それぞれが「試行活動」や「構想検討タイム」で得た発想や構想を、ICT を活用することでグループ内だけでなく学級や学年全体共有することで、豊かに発想し構想を深め、自らの主題を追求し表現する生徒を育成していきたい。

2. 美術科における「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体として充実させる ICT の活用

「個別最適な学び」の「学習の個性化」では、導入において様々な美しい芸術・参考作品などの画像や動画を鑑賞することで、生徒一人一人から生まれる興味や関心を基に自らが表現したい主題を設定することができるようにする。生徒の主題の実現に向け、自分の発想や構想に関する情報や、他者からのアドバイスなどを制作記録で蓄積しながら試行錯誤をくり返し、自らの答えを見いだせるようにする。

「指導の個別化」では、ロイロノートに提出される振り返りやアイデアスケッチなどの制作記録を基に、生徒のつまづきに対する助言や、主題の方向性との違いの修正、発想の実現に向けた指導に生かし、生徒が学習を調整しながら進めることができるようにする。

「協働的な学び」ではロイロノートや Jamboard の共有機能を活用し、生徒同士のアイデアを共有したり、自分のアイデアを他者から見たときにどのように感じられるのか検討し合ったりすることで、自分とは違う価値観や視点に気づき、それらを自分に取り込むことで新たな発想や構想を高めることができるようにする。

生徒が自ら生み出した主題に対して主体的に発想や構想をし、「構想検討タイム」により自分以外の発想や構想に触れたり、自分とは違う視点からのアドバイスを受け取ったりすることで、それを踏まえて再び自分の発想や構想を練り直すことができるようにする。

3. 問題解決の各過程における ICT の活用

問題解決の過程	ICT の活用
出会う	個 教科書や資料集の QR コードから見るができる作品や技法を鑑賞する。 個 活動の具体的なイメージをもたせるために写真や動画などの視覚教材を提示する。
試す・広げる	協 ロイロノートや Jamboard 上で「試行活動」の情報を共有する。 協 ロイロノートを用いてアイデアの情報を共有し、「構想検討タイム」を行う。
表す	個 アイデアスケッチを複製することで多様なパターンでの「試行活動」を行う。 個 イラストアプリのレイヤ機能による色彩表現の「試行活動」を行う。
振り返る	協 鑑賞時に学級全体で作品を共有するために集約、共有する。 個 本時の自分の活動を記録し、次の授業につなげる制作記録を残す。 協 Padlet に写真を貼ることで学級や学年を越えた作品情報を共有する。

< 2年 手のひらの上の季節 >

(教科書名 美術 I : 光村図書 季節感のある暮らしを楽しむ)

題材の目標

- ・色彩や形などを工夫し、道具を効果的に使用して、自らの主題を表現することができる。
- ・季節感を感じさせる和菓子として、造形的な視点から発想や構想を練ることができる。
- ・創造活動の喜びを味わい、目的を考えた表現の学習活動に取り組もうとすることができる。

ICT の活用のポイント 個 協

出
会
う

1 表現の見通しをもつ。

○ 題材全体の活動の見通しをもつ。

- ・参考作品や和菓子の写真を鑑賞し、季節感を表現するために、どのような工夫がされているかについて考える。
- ・四季を代表する植物や動物、ものなどに、どのようなものがあるかを調べ、季節感を感じさせる自分の和菓子のイメージを膨らませ、課題を立てる。

個 和菓子の写真から、どのような表現の工夫がされているか鑑賞したり、和菓子を作っている動画を鑑賞し、表現の技法を学んだりすることで生徒の興味・関心を高め、活動に見通しをもつことができるようにする。

協 鑑賞して気付いたことや考えたことなどを集約することで、自分だけでは気付かない視点や価値観を共有することができるようにする。

試
す
・
広
げ
る

2 表現したいことや主題を発想や構想をする。

○ 粘土を実際に用いて表現方法の「試行活動」を行う。

- ・樹脂粘土を粘土ベラや麺棒などを用いてどのような形を表現ができるか、実際に絵の具を混ぜてどのような色彩を表現できるか「試行活動」を行い、情報を共有する。

個 実際に和菓子を作っている動画をまねながら粘土を扱うことで、表現の技法を学び、自分のアイデアに生かすことができるようにする。

○ 季節を感じる和菓子について発想や構想をする。

- ・季節を想起させる植物や動物などについて共有する。
- ・実際の写真を基に強調したり単純化したりする。
- ・イメージした情景をアイデアスケッチとして残す。

協 季節を感じさせるモチーフにどのようなものがあるか、目に見えないものはどのような形をしているかなどについて発想し、ロイロノートで共有することで、それぞれの発想を広げることができるようにする。

○ 発想や構想をしたアイデアについて「構想検討タイム」を行う。

- ・アイデアスケッチを共有しつつ、それぞれが表現したいことに対し、和菓子の色彩や形、デザインが適しているか、グループ内で構想を検討する。

協 ロイロノートの共有機能や Padlet などを用いて、グループ内だけでなく学級全体や学年全体でアイデアの共有ができるようにすることで、発想や構想を練り直すことができるようにする。

表
す

3 構想を基に制作する。

○ 構想したアイデアを基に、粘土で和菓子を制作する。

- ・表現したい季節に応じて色彩や形の表現方法を選んだり組み合わせたりする。
- ・制作途中の作品を常に相互鑑賞することで、よさなどを共有する。

個 制作を進める中でどのようなことを難しいと感じているのか、そのときどのようなことを考えていたかなどについて制作記録をつけることで、生徒が前時からの活動の連続性を保つことができるようにし、それを基に教師が個別の支援を行うことができるようにする。

振
り
返
る

4 作品を鑑賞し表現活動を振り返る。

○ 作品を鑑賞し合い、よさや工夫点を話し合う。

- ・学級内で互いの作品について交代で説明し、季節を感じさせる和菓子表現のために色彩や形について工夫したことを話し合わせる。
- ・ロイロノートや Padlet で集約した作品の写真や作品に関する説明を書いたカードを共有しつつ、小グループの代表がクラス全体に自分の作品について解説を行う。

個 ロイロノートや Padlet でそれぞれの作品の写真や、解説文を共有することで、豊かに発想し、構想を深めたりすることができるようにする。また、作品に関して発表をしよう際に、説明を聞きながら、作品の興味や関心をもった部分を生徒それぞれが拡大したり見直したりすることができるようにする。

2年 手のひらの上の季節

(季節感のある暮らしを楽しむ・光村図書)

<使用したアプリ等>
ロイロノート



ICT 活用のポイント

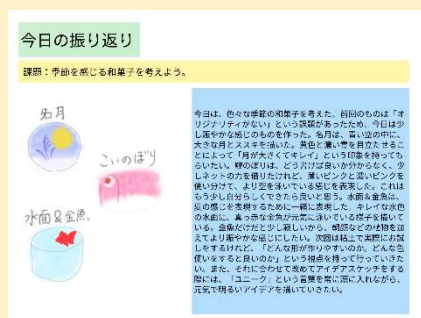
ロイロノートの共有機能を用いたアイデアの検討を行う協働学習

<目標>

ロイロノートの共有機能を使って互いのアイデアについて発表し、グループで検討し合うことで自分の発想や構想を練り直し、新たなアイデアを生み出すことができる。

前時の活動を振り返り、それぞれの本時の課題をつかむ。

- 前時の制作の記録を振り返ることで、連続性のある制作を行うことができるようにする。



生徒が各自の課題を理解して取り組む学習の個別化

- 個** ロイロノートでアイデアや作品の画像を載せた制作記録を残しておくことで、前時でどのような課題があったかなどを振り返り、活動の連続性を保つことができるようにする。
- 協** ロイロノートの共有機能で生徒同士の制作記録を共有することで、自分になかった発想や構想を得たり自分とは違う視点のアドバイスをアイデアに取り込んだりすることができるようにする。

互いのアイデアに関する情報をグループで共有し、「構想検討タイム」に取り組む。

- 自分のアイデアについて、グループ内で発表し、情報を共有する。
- 発表されたアイデアに対してそれぞれの視点から意見を述べ合い、アイデアの改善を行う。



発想や構想を共有しながら検討する協働学習

- 協** ロイロノートで互いのアイデアの画像や考えをまとめた文などを共有することで、自分とは違う価値観や視点からも発想や構想を練り直すことができるようにする。
- 協** ロイロノートの共有機能を活用することで、生徒同士が互いのアイデアについて鑑賞したことをワークシートに自由に書き込み、グループだけでなく学級全体でも検討することができるようにする。
- 個** 発想を表現することが苦手な生徒が、アイデアを共有することで表現の見通しをもつことができるようにする。

「構想検討タイム」の結果を基にアイデアを生み出す。

- 「構想検討タイム」で得た他者のアイデアやアドバイスを基に、新たなアイデアを生み出す。



作品の写真や情報を互いに共有し、学習を振り返る

- 協** 練り直したアイデアを制作記録に残し、ロイロノートで共有することで、互いにアイデアに関する新しい情報を共有し、自分のアイデアに生かすことができるようにする。

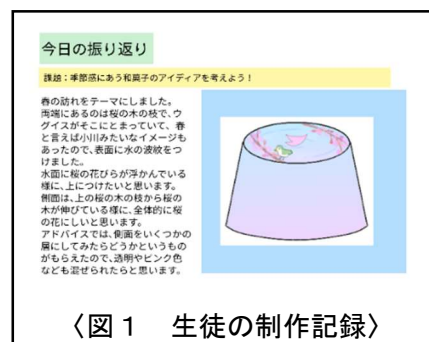


ロイロノートの共有機能を使ってお互いのアイデアを説明したり、それを基に検討を重ねたりすることで、自分の発想や構想を練り直し、新たなアイデアを生み出すことができた。

4. 成果と課題

実践を終えての成果

- ・授業ごとにその授業で考えたことや気付いたこと、学んだことなどを言葉で記録し、アイデアスケッチや作品の写真を撮影したものを貼り合わせた制作記録を作成することで、次の授業で自分の発想や構想の課題を明確に確認することができ、授業ごとの連続性をより保つことができるようになった（図1）。
- ・集約した生徒の制作記録から生徒の発想や構想のつまずきなどを読み取り、授業中に教師から生徒へ積極的な声かけを行うことで、つまずきの解決やアイデアの改善を図ることができた。
- ・粘土を使った「試行活動」の時間を取ったことで、生徒は自分の発想が実現可能か検討することができた。また、そこで分かった粘土の特性や、色の混ぜ方などといった情報をそれぞれ共有したことで自分の構想を練り直すことに生かし、表現したいことの実現性を高めることができた。
- ・作品の制作過程を授業ごとにロイロノートやPadletで共有したことで、生徒同士が「構想検討タイム」などからアイデアのヒントを得ながら進行状況を知ることができ、完成に向けての過程の見通しが生まれ、自分の制作活動を調整することができていた（図2）。
- ・共有した作品の写真を見て授業後に互いの発想や構想を称賛し合ったり、使用している技法について生徒同士が質問し合ったりするなど、授業外でも生徒が主体的に学び合う姿が見られるようになった。



実践を終えての課題

- ・アイデアスケッチの段階で豊かな発想をしても、実際に制作する中で新たな制作上の問題が生まれ、アイデア通りに進めることができなくなったことで、アイデアの実現を諦め、安易な表現に変えてしまう生徒の姿が見られた。生徒が諦めて別の方向に進んでしまう前に教師からの支援を行い、生徒のアイデアを実現していけるようにしていきたい。
- ・生徒同士が互いの技法を知りたい場合、制作過程をそのまま見せられるとは限らず、言葉だけの説明では限界がある場面があった。技法について撮影した動画を用いることで情報を共有し、生徒の表現の幅をより広げられるようにしていきたい。
- ・紙や粘土、絵の具などの素材や材料を「試行活動」する時間を設けると、題材全体の時間が圧迫されてしまう部分があるので、今後もICTを効果的に活用して生徒の活動時間を確保していきたい。

<参考文献>

群馬県教育委員会（2019）『はばたく群馬の指導プランⅡ』

国立教育政策研究所（2020）『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』 東洋館出版社

東良 雅人（2018）『中学校美術科の新しい学習指導要領の改訂の方向性』 文部科学省

文部科学省（2018）『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説美術編』 日本文教出版